

4年たった今あらためて、『変わらないことに感謝して…。』

今日は3月の九日。大きな被害のあった東日本大震災から4年がたとうとしています。明後日がちょうどその大震災の日にあたります。

もう4年たつのですから、今ここにいる6年生の皆さんはまだ2年生。5年生の皆さんはまだ1年生。1年生の皆さんはまだ2歳か3歳。

晴れてはいたけれどもとても寒い日でした。地震が来たのは、午後2時15分頃で、1、2年生はさようならをして帰る途中。6年生は卒業式の練習を始めたところ。校庭では4年生が体育をしていました。その地震が来た時、みんな経験したことのない大きな揺れに、あちらこちらから悲鳴や鳴き声が聞こえたのを覚えています。校庭にいた人たちもたつていられないような激しい揺れでした。校庭の木がそれこそ嘘のようにゆっくりと大きく大きく揺れ、屋上のプールの水がこぼれてきました。

その二日後の月曜朝会の話が残っているので、今日はそれを読みます。

お早うございます。朝登校してくる皆さんの元気な顔を見て心からほっとしました。今日は、まだ地震が心配なので体育館には集まらず、教室での放送朝会にしました。金曜日の大きな地震で皆さんにはとても怖い思いをさせました。先生達にとってもこんな大きな地震は初めてのこと。皆さんを守るために精一杯がんばったつもりですが、怖い思いをさせてしまいました。

今日、皆さんの元気な顔を見ていつもよりも何倍もうれしく思いました。ですから、挨拶も「お早う」ではなく、「大丈夫ですか・・・。」「元気は出ましたか。」、でした。

それでも、わたしたちはこうして元気に学校に登校でき、家も家族も無事で、また、いつもと同じように当たり前、友だちもいて、が班も食べられるし、お風呂にも入れる。これまでと変わらない「当たり前」のこれまでと「変らない」生活をする事ができます。

ところが、皆さんと校庭に避難した11日金曜日のあの同じ頃に・・・、東北から関東にかけての太平洋側では、家をなくし、家族をなくし、町をなくし、ふだん当たり前と思っていたものすべてを無くしてしまった人が数え切れないほどいたのです。

そして、それだけではなく、悲しいことにこれまでにないほど多くの人の命が奪われてしまっていたのです。

そして今、まだ助け出されずにいる人、避難所でつらい思いをしている人、必死で家族を捜したり、命がけで救助に向かったりしている人がたくさんいるのです。

亡くなられた方々を思い、被災されてすべてをなくしてしまった方々、救助に全力でがんばっている方々を応援する気持ちを、桃五小のみんなで送りたいと思います。

北東の方角を向いてください。(椅子の向きを変える音が全校から聞こえます。)

目をつぶって北東の方角に、心をこめて祈ってください。

黙祷します。

(学校全体から物音が消え、見えないけれど黙祷しているみなさんの様子が心に伝

わってきます。)

はい。ありがとうございました。

みんなの気持ちは、きっと届いていくと思います。

今、大切なのは、そして、今わたしたちにできることは、自分がこれまでと変わりにくく生活できることに感謝し、地震や津波で被災した人を思いやり応援するために自分にはどんなことができるのかを精一杯考えることです。

今、同じ国に暮らすわたしたちに大切なのは、人を思いやる心です。

全員が少しずつの我慢を出し合い、今被災して困っている人たちを思いやり、応援し手助けしていこうとする温かい心をもつことです。

みんなが応援して、自分が少しでも役に立てることはないか考えるときです。

桃五小の623人の温かい心を、貸してください。

このような内容でした。

この大地震で、1万5千人以上の方が亡くなり、4年たった今も3000人以上の方がいまだに行方不明のままです。

今、私たちは何気なくあたり前のように毎日を過ごしています。でも、つい4年前に同じこの国で大きな災害があり、たくさんの方が亡くなりいまだに、家族が見つからなかったり、自宅の戻れずに避難生活を続けている人たちもいます。

4年前、多くの人たちが被災した人たちを救おうと、心からの応援を様々な形で、それこそ日本中で大きな声が上がリ、東京からも、この杉並からもたくさんの方が立ち上がりました。

この桃五小でも、高学年の子たちから被災地の人たちを助けてあげたいという声があり、みんなでお小遣いを出し合いたくさんの募金をして、義援金として東北の方々に送りました。

そんな素敵な桃5小の先輩たちの校杯である皆さん、何気ない今の毎日の生活に、元気で過ごせる今に感謝して、今できることを一生懸命に頑張りましょうね。

お話を終わります。

